

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 人間論	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 秋山 智久
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
卒業必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 人間とは何かを深く考察し、その人間の持つ本性が実際の社会や家庭においてどのように表れるかを考える中で、介護を必要とする「人」を理解し、心から介護・援助が出来るようになるために、人間に接する根源的な態度を考える。そして介護者としての人間性・倫理性を考え、その基本となる感性を磨くことができることを目指す。		主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 人間の姿を直視し、種々の視点から人間を理解できるように、過去、人類が考察してきた多くの「人間観」を学ぶ。更に介護実践者として行動する時の根本にある社会福祉の価値観や態度が身につくようにする。		
[授業終了時の達成課題（到達目標）] クライアント（被介護者）の持つ個人的・家庭的・社会的な問題を理解し、介護者として心暖かく接することができるようになる。		
[準備学習の内容] なるべく、社会福祉実践の現場を数回、訪ねてみる。父母から祖父母のことを聞いてみる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) 人間の種々な姿を想像してみる。人間の本性は悪か善か、それとも別の視点から見るのか。		
2) ヒトはどのように「人間」になったのかを考える。人間の理性とは何かを考察する。		
3) 赤の他人である「人」（被介護者）を助ける必要があるのかを根本から考察する。 さらに、なぜ人間のみが、血族、親族を超えて、「人」を助けることが出来るかを学ぶ。		
4) 高齢者観の変遷を考えてみる。姥捨て山とは何であったのか。 なぜ「ピンピンコロリ」を望み、「ぼっくり寺」が有るのかを考える。		
5) 人間の「価値」と、人間の「尊厳」との違いについて考える。 Have と Be の価値観。		
6) 生命尊重と人間尊重の違い、QOL の三層構造、QOC, QOD、を考える。		
7) 社会福祉（ソーシャルワーク）の三大要素を概観する。 社会福祉の三大要素（IF）の一番目：「価値（観）」について、（1）愛を基に考えてみる。		
8) 社会福祉の三大要素の一つ「価値（観）」について、 （2）宗教を基に考えてみる。宗教の中の愛を考えてみる。		
9) 自立と自己決定、ストレングスとエンパワメント、について考える。		
10) 人間同士の共生とノーマライゼーションについて、考える。		
11) 人間の持つ「偏見と差別」、「内なる差別」、「側の思想」、について考察してみる。		
12) 人間の運命と永遠、働きかける者の「雑毒の善」、について考えてみる。		
13) 人間の「生と死」を考える。		
14) 人生の喜びと希望、人間の生き方、出会いと感謝、について考えてみる。		
15) フィルム・フォーラムで、歴史上の社会福祉実践の素晴らしさを見て、ディスカッションする。		
試験) 筆記試験 or レポート	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 秋山智久『社会福祉の思想 入門』ミネルヴァ書房、2016.	【授業内評価】 ・平常点評価 (50 %)	・筆記試験 (50 %) ・レポート (%)
[参考文献] 秋山智久『社会福祉実践論』ミネルヴァ書房、2011 改訂版。	・到達度の確認 (0 %) ・実技・作品発表 (%)	・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験終了後に開示する。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

400110

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーションⅠ	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 片平 誓子
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
卒業必修		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験 社会科学の知識とワークショップデザイナーとしての経験を活かし、理論に基づく体験的な学習を実施する		
[授業の目的・ねらい] コミュニケーションの基本となる自己理解を通し、他者の思いや価値観の違いに気づくことで、多様な人々に対して情報を正しく伝えるための技術を体得し、それを実践できる。受容と共感の気持ちを持って、他者との人間関係を築くことができるようになる。		主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 講義の中で理論を学び、それに基づいた体験的な学習（ワークショップ）を行うことで、より理解を深め、実際に活用できる内容とする		
[授業修了時の達成課題（到達目標）]自分の行動を客観的に判断できるようになる（メタ認知が可能となる）。他者とのスムーズな情報共有が出来るようになっている。		
[準備学習の内容]講義後は毎回ふり返りレポートおよびルーブリックを記入し、自分の成長について把握する		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) イントロダクション：“コミュニケーション”について、心理学的側面からの理論形成、研究の歴史などの紹介		
2) 自己概念の理解：自己を知ることが、他者との関係性を広げていくポイントであることを理解する（グループワークあり）		
3) メッセージの共有：価値観の違う相手とのメッセージの共有について理解する（グループワークあり）		
4) 話す、きく：メッセージを伝え合うためには、相手の立場に立つことが重要であることを理解する（グループワークあり）		
5) 言語的コミュニケーション：その特徴を理解する（グループワークあり）		
6) 非言語的コミュニケーション：その種類と特徴を理解する（グループワークあり）		
7) コミュニケーションの効果：自分の話し方や態度が、相手にどのような影響を与えるか理解する（グループワークあり）		
8) 印象形成と対人距離：第一印象やステレオタイプ、相手との距離感が持つ心理的影響力について学習する（グループワークあり）		
9) 受容：「相手を受け入れる」と言うことの大切さを理解する（グループワークあり）		
10) 共感：「相手と共に感じる」と言うことの大切さを理解する（グループワークあり）		
11) 一方向・双方向のコミュニケーション：それぞれの特徴と違いを理解する（グループワークあり）		
12) 交流分析：エゴグラムを通して、他者との関わり方への応用を学習する（グループワークあり）		
13) 自己開示とフィードバック：適切な自己開示の方法を学習する（グループワークあり）		
14) 前期のまとめ①：前期で学んだこと全てをふり返り、皆で協力しながら課題に取り組む（グループワークあり）		
15) 前期のまとめ②：前期で学んだこと、自分の成長などをふり返り、レポートを書く		
試験) 筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト]	【授業内評価】 ・平常点評価 (30%)	・筆記試験 (50%) ・レポート (20%)
[参考文献]	・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)	・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[フィードバックの方法]到達度レポートはレポート内のコメントで、試験は配布レジユメの確認でフィードバックする	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

500111

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 生活と社会福祉Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 石田 一紀	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 社会福祉の概念を理解することで、社会福祉の視点を持って要介護者の生活課題を明らかにできる 2. 介護福祉を取り巻く社会的状況を把握し、現代社会における社会福祉の必要性を理解し説明できる 3. 社会福祉制度の仕組みを理解し、要介護者の生活と福祉の関係性を理解し説明できる 4. 人権擁護の視点に立って、対象者の生活を見る事の必要性を理解し説明できる					3
[授業全体の内容の概要]					
授業は、レジュメ及びテキストを中心に、目的・ねらいに沿って行う。演習や視聴覚教材を用いながら、学生が参加する時間を設ける。社会福祉の歴史や方法論を学ぶことで、社会福祉の考え方についての理解を目指し、講義する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
日常生活にある様々な生活問題について主体的に捉えることができ、「暮らしやすく快適な生活」を実現するための理論と方法を理解し、介護現場で活用できるための方法を説明できる。					
[準備学習の内容]					
定期的に指定するレポートを提出すること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 私たちの生活とその構造					
2) 家族の役割と変化、社会と組織					
3) 社会福祉とは					
4) 社会福祉の思想					
5) 「人間」とは何かを考える					
6) 主体的・目的意識的な生活行為としての介護					
7) 日本における社会保障制度の発達①					
8) 日本における社会保障制度の発達②					
9) 要介護者の生活を支える社会保障制度の概要①					
10) 要介護者の生活を支える社会保障制度のしくみ②					
11) 高齢者福祉と介護保険制度					
12) 障害者福祉と障害者保険福祉制度					
13) 権利擁護に関わる制度					
14) 地域共生社会の実現に向けた制度と施策					
15) 福祉の対象者からみる今日の社会福祉制度					
試験) 筆記試験		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト]		【授業内評価】		・筆記試験 (80 %)	
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座2 生活と社会福祉」中央法規		・平常点評価 (10 %)		・レポート (%)	
[参考文献]		・到達度の確認 (10 %)		・実技試験 (%)	
		・実技・作品発表 (%)		・面接試験 (%)	
[フィードバックの方法]		[備考]			
筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。					

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

300112

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 生活と社会福祉Ⅱ	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 堅田 知佐
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
卒業必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 1. 社会福祉の概念を理解することで、社会福祉の視点を持って要介護者の生活課題を明らかにすることができる。 2. 介護福祉を取り巻く社会的状況を把握し、現代社会における社会福祉の必要性を理解し説明できる。 3. 社会福祉制度の仕組みを理解し、要介護者の生活と福祉の関係性を理解し説明できる。 4. 人権擁護の視点に立って、対象者の生活を見る事の必要性を理解し説明できる。		主に対応するD P 3
[授業全体の内容の概要] 授業は、レジュメ及びテキストを中心に、目的・ねらいに沿って行う。演習や視聴覚教材を用いながら、学生が参加する時間を設ける。社会福祉の歴史を踏まえた現在の法制度・政策を学ぶことで、社会福祉の考え方についての理解を目指し、講義する。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 日常生活にある様々な生活問題について主体的に捉えることができ、「暮らしやすく快適な生活」を実現するための理論と方法を理解し、介護現場で活用できるための方法を説明できる。		
[準備学習の内容] 事前にテキスト、授業中に配布する資料をよく読み、定期的に指定するレポートを提出すること。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) <u>介護保険制度</u> のしくみ①		
2) <u>介護保険制度</u> のしくみ②		
3) <u>介護保険制度</u> のしくみ③		
4) <u>介護保険制度</u> に関わる組織とその役割		
5) <u>介護保険制度</u> における専門職の役割		
6) <u>介護保険制度</u> と高齢者介護の動向		
7) <u>障害者自立支援制度</u> 創設の目的と動向		
8) <u>障害者自立支援制度</u> のしくみ①		
9) <u>障害者自立支援制度</u> のしくみ②		
10) <u>障害者自立支援制度</u> のかかわる組織とその役割		
11) <u>介護実践に関連する諸制度</u> ①（個人情報保護制度・成年後見制度）		
12) <u>介護実践に関連する諸制度</u> ②（虐待防止法）		
13) 生活を支える諸制度のあらまし（生活保護法等）		
14) 現代社会における新たな支え合いの必要性		
15) まとめ：「福祉の対象者の立場から現在の法制度の課題と解決方法」をテーマに学生によるプレゼンテーションを実施		
試験）筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規	【授業内評価】 ・平常点評価 (10 %) ・到達度の確認 (10 %) ・実技・作品発表 (%)	・筆記試験 (80 %) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献] 介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座 16 資料編」中央法規 伊東利洋「社会保障制度指さしガイド 20 年度版」日総研 「社会福祉小六法 2020」中央法規		
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護の基本	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 石田 一紀
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
卒業必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 介護福祉を取り巻く状況と課題を理解し、 <u>介護福祉士として果たすべき役割</u> を理解する。		主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] テキスト、レジュメ及び必要な情報については適宜補足資料を用意しながら、目的・ねらいに沿って講義を行う。介護及び介護福祉についての基礎理論を関連分野の知識を応用しながら講義を行う。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護の専門職として必要な知識や理念を理解し、今後の介護の方向性について考察することができる。専門職業人としての自覚と意識を持つことができる。		
[準備学習の内容] 定期的に指定するレポートを提出すること。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1) <u>介護の基本理念</u> （尊厳の保持と自立支援）		
2) <u>介護福祉士の倫理</u>		
3) <u>介護とは何か①</u> （介護福祉の定義）		
4) <u>介護とは何か②</u> （介護の対象・提供の場・担い手）		
5) <u>介護福祉士の役割と機能</u> を支えるしくみ①（「社会福祉士及び介護福祉士法」）		
6) <u>介護福祉士の役割と機能</u> を支える仕組み②（介護の担い手としての行動指針）		
7) <u>介護福祉士の役割と機能</u> を支えるしくみ③（サービス提供施設における介護職員の役割）		
8) <u>介護福祉士の役割と機能</u> を支えるしくみ④（専門職能団体の活動）		
9) <u>協働する多職種の役割と機能</u>		
10) <u>介護現場における安全の確保とリスクマネジメント</u>		
11) <u>介護従事者の安全</u>		
12) その人らしさを活かす介護過程		
13) 生きる意欲と生きている喜びを取り戻すための介護過程		
14) 生きがいの節目をつなぐ介護過程		
15) 願いをわかちあう集団作りと生活基盤を創造していく介護過程		
試験) 筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] ・介護福祉士養成講座編集委員会編「最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ」中央法規出版 ・「介護福祉士養成講座編集委員会編「最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規出版	【授業内評価】 ・平常点評価 (10 %) ・到達度の確認 (10 %) ・実技・作品発表 (%)	・筆記試験 (80 %) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献]		
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

400210

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護対象者論Ⅰ	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 石田 一紀
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
卒業必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えることができる。		主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 1. 介護を必要とする人の生活を学ぶ。 2. 介護サービスの概要を学ぶ。 3. 介護サービスの提供の場の特性を学ぶ。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護を必要とする人の生活実態を理解し、説明できる。 2. 介護サービスの概要を説明できる。 3. 介護サービスがどこでどのように提供されているかについて説明できる。		
[準備学習の内容] 定期的に指定するレポートを提出すること。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1) <u>介護を必要とする人の理解</u>		
2) 人間の多様性・複雑性の理解		
3) 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ		
4) 高齢者・障がい者の生活の理解と介護者の気づき①		
5) 高齢者・障がい者の生活の理解と介護者の気づき②		
6) 介護サービスと人間の欲求		
7) 介護サービスの概要①（高齢者福祉サービス）		
8) 介護サービスの概要②（介護保険サービス）		
9) 介護サービスの概要③（障がい者福祉サービス）		
10) 介護サービスの概要④（障害者自立支援制度におけるサービス）		
11) 生きがい支援と介護の本質		
12) 生活史と「その人らしさ」		
13) 生きる意欲と生きている喜びを取り戻すための支援		
14) 介護福祉という仕事の特長と介護職の発達①		
15) 介護福祉という仕事の特長と介護職の発達②		
試験) 筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] ・介護福祉士養成講座編集委員会編「最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ」中央法規出版 ・介護福祉士養成講座編集委員会編「最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規出版	【授業内評価】 ・平常点評価 (10 %) ・到達度の確認 (10 %) ・実技・作品発表 (%)	・筆記試験 (80 %) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献]		
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

100220

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護現場におけるコミュニケーション技術	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習	授業担当者 堅田 知佐
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター
卒業必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい]		主に対応するDP
1. 介護従事者として人間関係形成に必要なコミュニケーションの意味と役割について理解し説明できる 2. サービス利用者の状態や状況、利用者を取り巻く家族の状況に応じたコミュニケーションを理解し実践できる 3. 加齢による心身の変化を理解し、高齢者に合わせたコミュニケーションの必要性を理解し説明できる。 4. 多様な介護場面におけるチームとしての連携と情報の共有化について基礎的な知識と技術を身に付ける		5
[授業全体の内容の概要] コミュニケーションの果たす役割を理解した上で、生活機能の低下した利用者やその家族への関わり方、また、他職種共同を実現するためのコミュニケーションのあり方を学習する。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得し、介護福祉援助活動で活用する能力と態度を身に付ける。		
[準備学習の内容] 事前にテキスト、授業中に配布する資料をよく読み、定期的に指定するレポートを提出すること。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) 介護におけるコミュニケーションの基本（意義、目的、方法）		
2) 利用者・家族との関係づくり		
3) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション①（話を聴く技法）		
4) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション②（利用者の感情表現を察する技法）		
5) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション③（納得と同意を得る技法）		
6) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション①（相談・助言・指導）		
7) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション②（意欲を引き出す技法）		
8) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション③（利用者本人と家族の意向の調整を図る技法）		
9) 介護従事者としての自己覚知と他者理解①		
10) 介護従事者としての自己覚知と他者理解②		
11) 介護における記録の意義・目的・介護記録の種類、方法		
12) 介護におけるチームのコミュニケーション（チームワークの意義と目的・方法）		
13) 会議の意義と目的、方法と留意点		
14) 会議の種類、ケアカンファレンスの方法と留意点		
15) まとめ:介護場面における利用者の意欲を引き出すためのコミュニケーションの方法についての学生によるプレゼンテーション		
試験) 筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術」中央法規出版	【授業内評価】 ・平常点評価 (10 %) ・到達度の確認 (20 %) ・実技・作品発表 (%)	・筆記試験 (70 %) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献] 山岡仁美著「すぐに使える介護のための接遇講座」中央法規		
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

500221

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術 I		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 小田 史	
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 生命の尊さ、人としての自尊心を価値とし、個性やその人の独自性を理解することができる。 2. 地域での生活者としての「その人らしい生活」の継続を可能にするための環境を再構築し、人を「人」として見、その人の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるように支援するための知識・技術を習得できる。					3
[授業全体の内容の概要]					
テキストを中心に板書を行い。生活支援技術の根拠を理解し、演習において体験を通じて学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. 自分の行動を理解し、説明することができる。 2. その人の個性、独自性がある事を理解し、説明することができる。 3. 自分との違いを理解し、それぞれの支援の方法を考え、説明することができる。					
[準備学習の内容]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1 オリエンテーション 2 介護技術 I を学ぶ 3・4 <u>自立に向けた居住環境の整備</u> 5・6 観察とアセスメントの技法 7・8 <u>自立に向けた移動の介護</u> 9・10 移動の介護① 11・12 移動の介護② 13・14 移動の介護③ 15・16 <u>自立に向けた身じたくの介護</u> 17・18 身じたくの介護① 19・20 身じたくの介護② 21・22 <u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u> 23・24 清潔保持の介護 25・26 入浴の介護① 27・28 入浴の介護② 29・30 まとめ					
試験)			[単位認定の方法及び基準]		【試験】
[使用テキスト]			【授業内評価】		・筆記試験 (%)
最新・介護福祉士養成講座 第6.7巻 中央法規出版 2019			・平常点評価 (%)		・レポート (%)
[参考文献]			・到達度の確認 (%)		・実技試験 (%)
			・実技・作品発表 (%)		・面接試験 (%)
[フィードバックの方法]			[備考]		

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

300212

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 小田 史	
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1.生命の尊さ、人としての自尊心を価値とし、個別性やその人の独自性を理解することができる。 2.地域での生活者としての「その人らしい生活」の継続を可能にするための環境を再構築し、人を「人」として見、その人の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるよう支援するための知識・技術を習得する。 3.現代の介護技術における人材不足という課題に対して国は、業務効率化とサービスの質の向上を目指し、介護ロボットの導入や ICT の活用を推進している。このことを踏まえた本来の生活支援の在り方について理解を深める。 4.人間とは？生活とは？を問い、その人らしく生きて活動する観点からの支援を追求するための基礎科目として、本科目では利用者とのかかわりを介護という概念ではなく、支援として捉える。介護という概念は主体が事業者側におかれ、本科目の授業目的にフィットしないため、利用者が主体的に生きることを支えるという意味で「支援」という概念で教育を行う。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] テキストを中心に板書を行いながらすすめ、且つ実技・体験を通じ学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1.自分の行動を理解し、説明することができる。 2.その人の個別性、独自性がある事を理解し、自分との違いを説明する事ができる。 3.自分との違いを理解し、それぞれの支援の方法を考え、説明する事ができる。 4.生活に関わる移動・移乗動作を理解する。					
[準備学習の内容]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 オリエンテーション 2 生活支援技術Ⅱを学ぶ意義 3・4 自立に向けた食事の介護① 5・6 自立に向けた食事の介護② 7・8 自立に向けた食事の介護③ 9・10 自立に向けた排泄の介護① 11・12 自立に向けた排泄の介護② 13・14 自立に向けた排泄の介護③ 15・16 自立に向けた排泄の介護④ 17・18 自立に向けた排泄の介護⑤ 19・20 バイタルサインの測定 21・22 医療に関する医行為とされない行為 23・24 緊急時の対応 25・26 終末期の介護 27・28 睡眠の介護 29・30 まとめ					
試験) 筆記試験・実技試験			[単位認定の方法及び基準]		[試験]
[使用テキスト] 最新・介護福祉士養成講座 第6.7巻 中央法規出版 2019			【授業内評価】 ・平常点評価 (%)		・筆記試験 (50 %)
[参考文献]			・到達度の確認 (%)		・レポート (%)
			・実技・作品発表 (%)		・実技試験 (50 %)
[フィードバックの方法] 試験終了後、評価結果を解説する。			[備考]		

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

300222

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護過程の基本	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 堅田 知佐
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
卒業必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 1. 介護過程における思考過程を理解することができる。 2. 介護の根拠について、介護過程を通して明確にすることができる。		主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] テキスト及びレジュメ及び、必要な情報については適宜補足資料を用意しながら、目的・ねらいに沿って講義を行う。 介護過程とは何かについて、講義を中心に各段階に沿って学習していく。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護の方法を根拠に基づいて説明することができる。		
[準備学習の内容] 事前にテキスト、授業中に配布する資料をよく読み、定期的に指定するレポートを提出すること。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) <u>介護過程を学ぶ意義</u>		
2) 介護過程の構成要素		
3) 介護の目標		
4) 人間の基本的ニーズ①		
5) 人間の基本的ニーズ②：自らの生活ニーズを認識しながら人間のニーズについて考える（演習）		
6) 介護過程におけるアセスメント①（アセスメントとは何か）		
7) 介護過程におけるアセスメント②（アセスメントの方法）		
8) 介護過程のけるアセスメント③（情報収集と情報の意味）		
9) 介護過程におけるアセスメント④（情報の判断）		
10) 介護過程におけるアセスメント⑤（ニーズの特定）		
11) 介護過程における <u>介護計画</u> とは①（各制度での介護計画の位置づけ）		
12) 介護過程における介護計画とは②（対象者ニーズを充足するための介護計画）		
13) 介護過程の評価		
14) 介護における記録		
15) まとめ：学生によるプレゼンテーション（事例に基づき介護過程を展開する）		
試験）筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 石野育子編「最新介護福祉全書7 介護過程」メジカルフレンド社	【授業内評価】 ・平常点評価（10%） ・到達度の確認（40%） ・実技・作品発表（%）	・筆記試験（50%） ・レポート（%） ・実技試験（%） ・面接試験（%）
[参考文献] ・障害者福祉研究会編「ICF 国際生活機能分類」中央法規出版 ・大阪健康福祉短期大学介護福祉学科安来キャンパスコース「介護実習の手引き 2020 年度版」		
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

200213

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
生活に関連したところとからだのしくみ		講義		瀧本 真奈美	
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	4 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい]					主に対応するD P
生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護における安全への留意点や倫理的配慮について理解し説明できる。					2
[授業全体の内容の概要]					
からだのしくみで学んだ人体の各部の名称と生命維持のための生理を、日常の生活動作と関連付けて生活支援技術の根拠として活用できるようにする。また、生活場面でところとからだの変化に気づくための観察のポイントと医療職との連携、さらに終末期にある人のところとからだの変化と特徴について学習する。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）]					
①日常の生活動作と関連付けて生活支援技術の根拠となるからだのしくみを理解し説明できる					
②生活場面でところとからだの変化に気づく観察する力を身につけ、医療職との連携についても理解できる。					
③終末期にある人のところとからだの変化と特徴について学んだ知識に基づいて説明できる。					
[準備学習の内容]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 移動に関連したところとからだのしくみ 1.なぜ移動するのか 2.移動に関連したところのしくみ					
2) 移動に関連したところとからだのしくみ 3. 移動に関連したからだのしくみ					
3) 移動に関連したところとからだのしくみ 4. 心身の機能・低下が移動に及ぼす影響 5. 変化の気づきと対応					
4) 身じたくに関連したところとからだのしくみ 1.なぜ身じたくを整えるのか 2.身じたくに関連したところのしくみ					
5) 身じたくに関連したところとからだのしくみ 3.身じたくに関連したからだのしくみ					
6) 身じたくに関連したところとからだのしくみ 4.機能の低下・障害を及ぼす身じたくへの影響 5.変化の気づきと対応					
7) 食事に関連したところとからだのしくみ 1.なぜ食事をするのか 2.食事に関連したところのしくみ					
8) 食事に関連したところとからだのしくみ 3.食事に関連したからだのしくみ					
9) 食事に関連したところとからだのしくみ 4.心身の機能低下・障害が及ぼす食事への影響 5.変化の気づきと対応					
10) 食事に関連したところとからだのしくみ 6.安全な食事をするための留意点					
11) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 1.なぜ入浴・清潔保持を行うのか 2.入浴・清潔保持に関連したところのしくみ					
12) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 3.入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ					
13) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 4.心身の機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響 5.変化の気づきと対応					
14) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 6.安全な食事のための留意点					
15) 排泄に関連したところとからだのしくみ 1.なぜ排泄をするのか					
16) 排泄に関連したところとからだのしくみ 2.排泄に関連したところのしくみ 3.排泄に関連したからだのしくみ					
17) 排泄に関連したところとからだのしくみ 4.心身の機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響					
18) 排泄に関連したところとからだのしくみ 5.変化の気づきと対応					
19) 睡眠に関連したところとからだのしくみ 1.なぜ睡眠が必要なのか					
20) 睡眠に関連したところとからだのしくみ 2.睡眠のしくみ					
21) 睡眠に関連したところとからだのしくみ 3.心身の機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響					
22) 睡眠に関連したところとからだのしくみ 4.変化の気づきと対応					
23) 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 1.死を理解する 2.尊厳死					
24) 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 3.終末期について 4.終末期から死までのからだの変化と特徴					
25) 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 5.死後のからだの変化					
26) 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 6.死に対するところの理解					
27) 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 7.医療職との連携					
28) 「看取りについて」考える					
29) まとめ (1)					
30) まとめ (2)					
試験) 筆記試験			[単位認定の方法及び基準]		[試験]
[使用テキスト]			【授業内評価】		・筆記試験 (60 %)
・最新介護福祉士養成講座 第11巻 ところとからだのしくみ			・平常点評価 (20%)		・レポート (20 %)

(中央法規) ・必要に応じて資料を配布する。	・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)	・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献] ぜんぶわかる人体解剖図 (成美堂出版)		
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	[備考] 平常点評価：授業への参加度・発言の積極性	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

200324

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 認知症のケア I	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 林原 豊（元 GH 総合施設長）
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
卒業必修		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験 グループホーム総合施設長としての経験を基に、現場で通用する知識や技術の授業を行う		
[授業の目的・ねらい] 認知症の人を支援するために、あらゆる支援場面に共通する医学的知識の基礎について理解し説明できる。		主に対応するD P 2
[授業全体の内容の概要] テキスト、配布資料、スライドなどを使用しながら授業をおこないます。		
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 認知症の人の行動の理由や意味に気づき理解でき説明できる。支援場面において、その気づきや理解をどう活かすのか考え、説明することができる。		
[準備学習の内容] 所要時間：1 時間 「認知症」にまつわる記事（ニュースや新聞、厚生労働省 HP など）を 400 文字以内でレポートにまとめる		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) オリエンテーション 認知症を医学的側面から学ぶ大切さについて		
2) 認知症とは 定義と特徴 認知症のさまざまな症状 中核症状の理解		
3) 認知症の人の行動・心理症状 周辺症状と行動・心理症状（BPSD）の概念 行動・心理症状（BPSD）の中の心理（精神）症状		
4) 認知症の人の行動・心理症状 II 行動・心理症状（BPSD）の中の行動症状 意識障害の理解 行動・心理症状（BPSD）と本人の体験		
5) 脳のしくみ 老化のしくみと脳の変化 脳の機能と認知症		
6) 脳のしくみ II 認知症の記憶低下の特徴 認知症に類似した状態		
7) 認知症の原因疾患 アルツハイマー型認知症 血管性認知症		
8) 認知症の原因疾患 II レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 その他の原因疾患		
9) 認知症の診断と治療 診断の過程 認知症の原因疾患の診断		
10) 認知症の診断と治療 II 認知症の重症度の評価 認知症の治療		
11) 認知症の予防 危険因子 認知症予防		
12) 認知症の予防 (実習・ディスカッション) 予防 program (体操・脳活性・美容)		
13) 認知症の人の心理的理解 (グループワーク) 認知症の人から学ぶ 「クリスティーン・ブライデン講演より」 シルバーチャンネル DVD		
14) 認知症の人の心理的理解 II 人の理解と介護 認知症の人の心理を考える		
15) 認知症の人の心理的理解 II (プレゼンテーション) 認知症の人の心理的理解を行う方法を考える		
試験) 筆記試験・レポート提出	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 認知症介護基礎研修標準テキスト ワールドプランニング社	【授業内評価】 ・平常点評価 (%) ・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)	・筆記試験 (50 %) ・レポート (50 %) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献] その人を中心とした認知症ケア パーソン書房		
[フィードバックの方法] 正答と解答のポイントを試験期間終了後に開示する	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

200310

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 障がいの理解	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 京 俊輔
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
卒業必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] ①障害者福祉の理念をふまえ、今日の障害の捉え方を理解し、説明できるようになる。（DP1, 3） ②障害者福祉に関する各種制度の理解を深め、それぞれの特徴や違いを説明できるようになる（DP3） ③事例をもとにしなが、障害のある人との関わり方を身につけ、実践できるようになる（DP2, 4）		主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 「障害とは何か？」という問いを立て、障害者福祉の理念や制度、生活の中にある社会的障壁等への理解を深めながら、「障害」を考えていきます。また事例等を活用しながら、支援に必要とされる支援者の配慮等についても学んでいきます。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①障害者福祉の理念及び制度について説明できる。 ②障害の捉え方について説明できる。 ③障害の違いおよび必要とされる支援技術を学んだ知識に基づいて説明できる。		
[準備学習の内容] ・テキストの次回授業に関する内容を読み、関連する資料等を集めるなど下調べをすること。 ・授業終了後には、授業のレジュメとテキストを読み返し、要点をまとめること。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1) 障害の概念と障害者福祉の基本理念① 障害の概念 2) 障害の概念と障害者福祉の基本理念② 障害者福祉の基本理念 3) 障害の概念と障害者福祉の基本理念③ 障害者福祉に関連する制度 4) 障害の概念と障害者福祉の基本理念④ 障害者福祉制度と介護保険制度 5) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ① 6) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ② 7) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ③ 8) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ① 知的障害 9) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ② 精神障害 10) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ③ 発達障害 11) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ④ 難病 12) 連携と協働① 13) 連携と協働② 14) 家族への支援① 15) 家族への支援②		
試験) 筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座 14 障害の理解	【授業内評価】 ・平常点評価 (30 %)	・筆記試験 (70 %)
[参考文献]	・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)	・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

200312

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） キャリアアップ教育Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 石丸 直樹	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] 介護福祉を中心とした就職活動には様々なステップがある。そのステップについて学びを深めることにより、就職活動が円滑に行える知識や技術を身に付けることができる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 就職活動で必要となる履歴書の作成、就職面接等の必要な課題に取り組み、就職活動を控えてのキャリアデザインを行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・就職先に応じた履歴書を作成することができる。 ・模擬面接等を通して現時点での課題を明確にし、課題の克服方法を考えることができる。 ・就職先に応じたキャリアデザインを考えることができる。					
[準備学習の内容]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション 履歴書の書き方を練習しよう①					
2) 履歴書の書き方を練習しよう②					
3) 企業研究（就職希望先について調べよう）①					
4) 企業研究（就職希望先について調べよう）②					
5) 就職面接の練習をしよう①					
6) 就職面接の練習をしよう②					
7) 社会人基礎力を身につけよう					
8) 全体振り返り・まとめ					
試験)			[単位認定の方法及び基準]		【試験】
[使用テキスト] 『進路の手引き』、その他必要に応じてプリント等を配布する			【授業内評価】 ・平常点評価 (100%) ・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)		・筆記試験 (%) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献]					
[フィードバックの方法] 提出された課題について授業内で解説し、フィードバックを行う。			[備考] 評価について：学習の様子 (50%)、ワークシート等の提出と記述内容 (50%)		

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

500520

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 地域文化の創造	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習	授業担当者 小田 史
授業の回数 16 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1～4 セメスター
卒業必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関りや、自助から公助に至る過程を理解する。		主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 地域交流活動やボランティア活動等の体験を通し、個人と家族や地域社会との関りを学ぶ。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 地域住民との交流活動を通し、人が地域で生活することの重要性について、体験を通して説明することができる。		
[準備学習の内容] 定期的に指定するレポートを提出すること。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) 地域奉仕活動への参加	}	第1セメスター
2) 地域交流事業（田植え）への参加		
3) 地域交流事業（草取り）への参加		
4) 地域交流事業（草取り）への参加		
5) 地域交流事業（稲刈り）への参加		
6) 地域交流事業（収穫祭）への参加		
7) レクリエーション活動援助法（講義）	}	第2セメスター
8) レクリエーション活動援助法（演習）		
9) 地域交流事業（田植え）への参加	}	第3セメスター
10) 地域交流事業（草取り）への参加		
11) 地域交流事業（草取り）への参加		
12) 地域交流事業（稲刈り）への参加		
13) レクリエーション企画（演習）	}	第4セメスター
14) 地域交流事業（収穫祭）への参加		
15) 地域住民との交流企画の立案		
16) 地域住民との交流企画の実施		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] ・必要に応じ、レジュメを配布する	【授業内評価】 ・平常点評価 (30%)	・筆記試験 (%) ・レポート (%)
[参考文献]	・到達度の確認 (20%) ・実技・作品発表 (50%)	・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[フィードバックの方法] 授業終了後、それぞれの活動に対する評価を口頭にて行う。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

300511

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーションⅡ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 片平 誓子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		社会科学の知識とワークショップデザイナーとしての経験を活かし、理論に基づく体験的な学習を実施する			
[授業の目的・ねらい] 1セメスターで学んだ自己・他者理解の知識をもとに、多様な人々や異業種とのチームを作ること、それを維持することが積極的に出来るようになる。リーダーシップを尊重し、チームの中で主体的に行動できるようになる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 講義の中で理論を学び、それに基づいた体験的な学習（ワークショップ）を行うことで、より理解を深め、実際に活用できる内容とする					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]お互いを尊重しながら、チームの中で自分の役割を果たせるようになっている。自分の意見をしっかりと伝え、仲間とともに様々な課題に取り組むことができている。					
[準備学習の内容] 講義後は毎回ふり返りレポートおよびループリックを記入し、自分の成長について把握する					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 集団におけるコミュニケーション①：集団的コミュニケーションの基本について知る（グループワークあり）					
2) 集団におけるコミュニケーション②：職場や組織、グループとの関わり方を学習する（グループワークあり）					
3) チームマネジメントとは何か①：チームマネジメントの基本を知る（グループワークあり）					
4) チームマネジメントとは何か②：チームの行動規範について知る（グループワークあり）					
5) ホスピタリティ：相手の気持ちを思いやることについて学習する（グループワークあり）					
6) チームでの情報共有と合意形成②：チームワークについて知る（グループワークあり）					
7) チームでの情報共有と合意形成①：チームの力を伸ばす方法について知る（グループワークあり）					
8) リーダーシップ①：リーダーの資質について理解する（グループワークあり）					
9) リーダーシップ②：リーダーの役割と種類について知る（グループワークあり）					
10) リーダーシップ③：リーダーとチームの関係について知る（グループワークあり）					
11) チームの維持①：コーチングについて知る（グループワークあり）					
12) チームの維持②：会議の進め方と合意形成について知る（グループワークあり）					
13) チームの維持③：人材の育成とストレスへの対応について知る（グループワークあり）					
14) 後期のまとめ①：後期学んだこと全てを使い、チームで課題に取り組む（グループワークあり）					
15) 後期のまとめ②：1年間通して自分とチームがどう変化したかを振り返る（グループワーク・プレゼンテーション）					
試験) 筆記試験		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト]		【授業内評価】		・筆記試験（ 50% ）	
		・平常点評価（ 30%）		・レポート（ 20% ）	
[参考文献]		・到達度の確認（ %）		・実技試験（ %）	
		・実技・作品発表（ %）		・面接試験（ %）	
[フィードバックの方法] 到達度レポートはレポート内のコメントで、試験は配布レジユメの確認でフィードバックする		[備考]			

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護過程の展開Ⅰ	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習	授業担当者 小田 史
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
資格必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 1. 介護過程の実践的展開技能を獲得できる。 2. 利用者個別のニーズを的確に把握することができる。 3. 介護過程の展開に必要な記録力を身に付けることができる。		主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 第1 Semesterで学んだ「介護過程の基本」での理論を踏まえ、展開実習Aにて受け持たせていただく利用者の事例を活用しながら、実践力を身に付ける。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 対象者の個別ニーズに基づいて介護過程を展開するための実践力が身に付く。		
[準備学習の内容] 「介護過程の基本」で学んだ理論を復習すること。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) 介護過程の理論（復習）		
2) 事例演習 ケースの生活背景の読み込みと必要な情報収集（時代背景等調べ学習）①		
3) 事例演習 ケースの生活背景の読み込みと必要な情報収集（時代背景等調べ学習）②情報収集結果の発表		
4) 事例演習 情報整理の方法 アセスメントシートへの記入①		
5) 事例演習 情報整理の方法 アセスメントシートへの記入②		
6) 事例演習 情報整理を通したニーズの分析③		
7) 事例演習 情報整理を通したニーズの分析④		
8) 事例演習 ニーズを明確にする		
9) 模擬カンファレンス ニーズ分析結果の発表①		
10) 模擬カンファレンス ニーズ分析結果の発表② 介護計画の作成②		
11) 事例演習 介護計画の作成①		
12) 事例演習 介護計画の作成②		
13) 模擬カンファレンス 各自で立案した介護計画の発表①		
14) 模擬カンファレンス 各自で立案した介護計画の発表②		
15) まとめ		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 石野育子『最新介護福祉全書7 介護過程』メジカルフレンド 大阪健康福祉短期大学介護福祉学科（安来キャンパスコース） 『介護実習の手引き 2020 年度版』	【授業内評価】 ・平常点評価 (30 %) ・到達度の確認 (30 %) ・実技・作品発表 (40 %)	・筆記試験 (%) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献]		
[フィードバックの方法] 演習結果及びカンファレンス結果に対するコメント	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

220223

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅰ	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習	授業担当者 瀧本 真奈美
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 1. 実習の意義と重要性について理解できる。 2. 実習を通じて学校内で学んだ知識を具体的に理解できる。 3. 介護福祉士としての自覚・専門職として求められる資質や対象者の理解を通し、自己に求められる課題を把握することができる。そして実習にのぞみ、実践していくことができる。		主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 各実習の段階に合わせて実習に向けての準備及び振り返りができるように、マナー、礼儀等社会人としての自覚を促す内容と実習記録の説明及び実習に関連し必要となる内容を教授し、介護福祉士の専門職育成を目指す。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護実習の意義と目的、介護実習の進め方、介護実習の現場、利用者の理解、実習時の心構え、留意事項について理解し実習での学習成果を報告できる。		
[準備学習の内容]		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) ①オリエンテーション（授業計画・実習日程・担当教員の確認） ②介護実習の概要 ③アンケート（介護に対するイメージ）		
2) ①体験実習Ⅰ・Ⅱの目標と評価基準 ②実習施設の理解		
3) 実習生としての基本事項の評価基準		
4) 体験実習Ⅰへ向けて		
5) 体験実習Ⅰの振り返り		
6)		
7)		
8) 体験実習Ⅰ実習報告会		
9)		
10) 体験実習Ⅱへ向けて		
11) 体験実習Ⅱの振り返り①		
12) 体験実習Ⅱの振り返り②		
13)		
14) 体験実習Ⅱ実習報告会		
15)		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 最新 介護福祉養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」	【授業内評価】 ・平常点評価 (20%) ・到達度の確認 (30%) ・実技・作品発表 (50%)	・筆記試験 (%) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献] ・「介護実習の手引き 2020 年度版」		
[フィードバックの方法] 実習報告会にて、教員よりコメントを行います。	[備考] 実習前、中、後にそれぞれ作成する資料の内容、作成姿勢、を評価の対象にします。また実習報告会での発表内容も評価の対象となります。	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

120210

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 瀧本 真奈美	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能及び事故に求められる課題把握等、総合的対応能力を習得する。 2. チームの一員として介護援助を遂行できる能力を身につける。 3. 事例研究を通し介護福祉士としての視点や能力を確認し、総合的な判断ができる力を身につける。 4. 様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現することができる。 5. 就職に向けて現任の準備ができる。					1
[授業全体の内容の概要]					
介護実習前の施設理解、利用者理解、実習後の報告会または実習期間中に学生が帰校日において学習する日を計画的に設け、実習に必要な知識や技術等について、実習と連動した学習内容とする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
どのような介護福祉士になりたいか、介護をどのように捉えるかなどを考えることが出来、利用者本位の介護実践ができる。					
[準備学習の内容]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
オリエンテーション					
①授業計画、日程、担当教員の確認					
1～4	展開実習A	事前学習	概要説明等		
5～9			介護過程の復習		
10			実習報告会について		
11～12		実習中	帰校日 受け持ち対象者の情報整理とニーズの明確化		
13	事後学習	振り返り			
14～15		実習報告会			
試験)			[単位認定の方法及び基準]	【試験】	
[使用テキスト]			【授業内評価】		・筆記試験 (%)
最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」			・平常点評価 (20 %)		・レポート (%)
[参考文献]			・到達度の確認 (20 %)		・実技試験 (%)
「介護実習の手引き 2020 年度版」			・実技・作品発表 (60 %)		・面接試験 (%)
[フィードバックの方法]			[備考]		
実習報告会にて、教員よりコメントを行います。					

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護福祉研究法	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習	授業担当者 堅田 知佐
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
資格必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 1. 介護福祉研究を行う目的と意義について理解し、自らのことばで説明することができる。 2. 介護福祉を取り巻く課題について、介護の対象者の視点から導き出すことができる。		主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 1. 介護福祉研究を行う目的を学ぶ。 2. 先行研究の重要性と整理の方法を学ぶ。 3. 研究計画書を作成する。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 他者の考えと自分の考えとの違いを整理することができる。 2. 様々な研究方法を知り、自らの研究テーマに沿った方法を設定できる。		
[準備学習の内容] 興味・関心のたるテーマに関する情報を収集し、整理しまとめる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1) オリエンテーション・研究とは何を知る		
2) テーマ設定のための準備①（クラスメイトとのコミュニケーション）		
3) テーマ設定のための準備②（文献とのコミュニケーション）		
4) 研究仮説とその立て方		
5) 研究の方法とは		
6) 研究計画書の書き方及び論文執筆方法について		
7・8) 第1次研究計画報告会		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 矢原隆行「介護福祉士・介護福祉学生のためのよくわかる介護福祉研究入門」保育者	【授業内評価】 ・平常点評価 (20 %) ・到達度の確認 (40 %) ・実技・作品発表 (40 %)	・筆記試験 (%) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献] 大阪健康福祉短期大学「大阪健康福祉短期大学紀要『創発』」 日本介護福祉学会「介護福祉学」		
[フィードバックの方法] レポート課題及び研究計画報告会での指導及び解説	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

320221

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅰ（体験実習Ⅰ）	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習	授業担当者 瀧本 真奈美
授業の回数 40 時間	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修
[授業の目的・ねらい] ・講義・演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めているニーズに関する理解力・判断力を身につける。		主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ・多様な福祉施設での体験を通し施設の理解、コミュニケーションをはかる体験 ・1週間に1日（8時間）×5：40時間（日勤）、グループホーム又はデイサービス又は小規模多機能又は障害者施設 なおこの介護実習Ⅰはこの実習をサポートする科目（介護総合演習Ⅰ）と合わせて履修することになっている。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解し行動できる。 ①地域密着型施設（グループホーム、デイサービス、小規模多機能型施設等）の種類とその根拠を理解できる。 ②利用者とのコミュニケーションをもち、介護の内容、職員の一般的な役割について理解するとともに施設の業務内容を理解することが出来る。 ③施設利用者の特性を理解できる。		
[準備学習の内容] 実習前には、それまでに学んだ科目の自身で復習をすること。「介護実習の手引き」を熟読しておくこと。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <p style="text-align: center;">■体験実習Ⅰ（履修日数：5日間 履修時間：40時間 5月30日（月）～6月3日（金） 多様な場での体験を通じて、利用者の生活と事業所について理解を深める。 ＊体験実習Ⅰ報告会1日間あり</p> <p style="text-align: center;">■実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 介護の対象者1人ひとりを地域で生活する住民として捉えることができる。 対象者の状態に応じて、自律・自立した生活を営むための介護方法を身につける。 わかりやすい記録ができる。 専門職業人として、主体的・継続的に専門性を追求していく資質を身につける。 		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 最新 介護福祉養成講座 第10巻 「介護総合演習・介護実習」（中央法規 2019番）	【授業内評価】 ・平常点評価 (50%) ・到達度の確認 (50%) ・実技・作品発表 (%)	・筆記試験 (%) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献] 「介護実習の手引き 2020年度版」 その他今まで学内で学んだすべての教科書		
[フィードバックの方法] 実習評価票に基づき、必要に応じて個別面談を行う。	[備考] ＊実習施設評価を参考に、担当教員及び実習評価会議にて決定する。	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅰ（体験実習Ⅱ）	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習	授業担当者 瀧本 真奈美
授業の回数 40 時間	時間数(単位数) 2 単位	1 セメスター
□ 実務経験	配当	資格必修
[授業の目的・ねらい] ・講義・演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めているニーズに関する理解力・判断力を身につける。		主に対応するD/P 1
[授業全体の内容の概要] ・多様な福祉施設での体験を通し施設の理解、コミュニケーションをはかる体験 ・1週間に1日（8時間）×5：40時間（日勤）、グループホーム又はデイサービス又は小規模多機能又は障害者施設 なおこの介護実習Ⅰはこの実習をサポートする科目（介護総合演習Ⅰ）と合わせて履修することになっている。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解し行動できる。 ①地域密着型施設（グループホーム、デイサービス、小規模多機能型施設等）の種類とその根拠を理解できる。 ②利用者とのコミュニケーションをもち、介護の内容、職員の一般的な役割について理解するとともに施設の業務内容を理解することが出来る。 ③施設利用者の特性を理解できる。		
[準備学習の内容] 実習前には、それまでに学んだ科目の自身で復習をすること。「介護実習の手引き」を熟読しておくこと。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ■体験実習Ⅱ（履修日数：5日間 履修時間：40時間）7月4日（月）～7月8日（金） 多様な場での体験を通じて、利用者の生活と事業所について理解を深める。 *体験実習Ⅰ報告会1日間あり ■実習目標 1. 介護の対象者1人ひとりを地域で生活する住民として捉えることができる。 2. 対象者の状態に応じて、自律・自立した生活を営むための介護方法を身につける。 3. わかりやすい記録ができる。 4. 専門職業人として、主体的・継続的に専門性を追求していく資質を身につける。		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 最新 介護福祉養成講座 第10巻 「介護総合演習・介護実習」（中央法規 2019番）	【授業内評価】 ・平常点評価 (50%) ・到達度の確認 (50%) ・実技・作品発表 (%)	・筆記試験 (%) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献] 「介護実習の手引き 2020年度版」 その他今まで学内で学んだすべての教科書		
[フィードバックの方法] 実習評価票に基づき、必要に応じて個別面談を行う。	[備考] *実習施設評価を参考に、担当教員及び実習評価会議にて決定する。	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

120212

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅱ（展開実習A）	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習	授業担当者 小田 史
授業の回数 120 時間	時間数(単位数) 4 単位	配当 2 セメスター
資格必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得できる。		主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 展開実習A（一人の利用者を受け持ち、介護過程の展開のうち1回目の6日間で利用者の情報収集を行い、帰校時に「介護過程の展開」科目において情報の整理・分析を行う。2回目の9日間で更に必要な情報の収集と分析、ニーズの抽出を行う。また、実践的な介護技術について学ぶ。）		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護の対象者一人ひとりを地域で生活する住民として捉えることができる。 2. 対象者の状態に応じて、自律・自立した生活を営むための介護方法を身につける。 3. 専門職業人として、主体的・継続的に専門性を追求していく資質を身につける。		
[準備学習の内容]		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1) 展開実習A（履修日数：15日間 履修時間：120時間） 実際に利用者を受け持ち、情報の収集・分析を行い、利用者が必要としている介護ニーズを明確にする。基本的な介護技術を踏まえ、利用者個々に応じた実践的な介護技術について体験する。		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 『最新介護福祉養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規 大阪健康福祉短期大学介護福祉学科（安来キャンパスコース） 『介護実習の手引き 2020 年度版』	【授業内評価】 ・平常点評価 (50 %) ・到達度の確認 (50 %) ・実技・作品発表 () %	・筆記試験 () % ・レポート () % ・実技試験 () % ・面接試験 () %
[参考文献]		
[フィードバックの方法] 実習中間反省会及び実習最終反省会でのコメント及び実習評価票に基づくコメント	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

320222

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） こころのしくみ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 人間のこころの機能や構造に関する基本的な事柄を学び、介護実践に必要な観察力・判断力の基盤となる知識を身につける。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] テキストを用いながら講義を行うが、必要に応じてプリントを準備する。体験的にも学習を含めることによって知識の定着を図る。毎回の講義の終わりに振り返りを行い、理解度の確認を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 人間の欲求について説明することができる。 2. 自己実現や自己実現に必要な心の機能について説明することができる。 3. こころの様々な機能について説明することができる。					
[準備学習の内容] キーワードについて調べ学習を行い、予めノートにまとめる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 人間の欲求①（基本的欲求） キーワード：マズローの欲求階層説、生理的欲求、安全欲求					
2) 人間の欲求②（社会的欲求） キーワード：所属・愛情の欲求、承認欲求、自己実現の欲求					
3) ライフステージにおける自己概念の発達 キーワード：発達段階、自立と尊厳					
4) 自己に関する基礎的な理解 キーワード：自己概念、自尊感情、パーソナリティ					
5) 他者との関わりの中で生まれる行動 キーワード：他者と自己					
6) <u>こころのしくみ①</u> ：こころとは何か。 キーワード：脳、こころ					
7) <u>こころのしくみ②</u> ：感覚と知覚 キーワード：五感、空間や色の知覚、注意					
8) <u>こころのしくみ③</u> ：記憶 キーワード：記憶の段階、記憶の種類					
9) <u>こころのしくみ④</u> ：学習 キーワード：行動理論と学習、認知理論と学習					
10) <u>こころのしくみ⑤</u> ：思考と言語 キーワード：演繹的思考、帰納的思考、内言					
11) <u>こころのしくみ⑥</u> ：感情と情動 キーワード：情動、気分					
12) <u>こころのしくみ⑦</u> ：意欲と動機づけ キーワード：動機づけ、自己決定、原因帰属					
13) <u>こころのしくみ⑧</u> ：条件づけ キーワード：古典的条件づけ、道具的条件づけ					
14) <u>こころのしくみ⑨</u> ：適応と不安 キーワード：適応機制					
15) <u>こころのしくみ⑩</u> ：発達 キーワード：生涯発達、発達のタイミング					
試験) 筆記試験		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 『最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規		【授業内評価】		・筆記試験 (100%)	
[参考文献]		・平常点評価 () (%)		・レポート () (%)	
		・到達度の確認 () (%)		・実技試験 () (%)	
		・実技・作品発表 () (%)		・面接試験 () (%)	
[フィードバックの方法] 正答を試験終了後に解説とともに開示する。		[備考]			

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

220313

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） からだのしくみ	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 瀧本 真奈美
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] ・からだのしくみに興味を持ち、介護技術の根拠となる人体の構造と機能について理解し説明できる。		主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] ・介護サービスを提供する際の根拠を学び理解する。介護を必要とする人々の増加、ニーズの多様化の中で、専門性の基礎となるところとからだのしくみの基礎を学ぶ。心理学や医学一般の知識と関連づけて、利用者の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。		
[授業終了時の達成課題（到達目標）] ① 自立生活を支援するために必要なところとからだの基礎的な知識を習得する。 ② ①を介護実践に適切に活用できる能力を養うことができる。		
[準備学習の内容] ・確認の小テストや下調べ・レポートなど、様々な課題が提示されるので、よく準備してから授業に臨むこと。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) 身体の成り立ちの理解		
2) 身体の形と臓器、身体の各部位の名称		
3) 細胞・組織・器官・器官系から人の体の理解		
4) 身体の恒常性		
5) 内臓機能と自律神経系		
6) 呼吸と循環のしくみ、外界からの刺激と調和のしくみ		
7) 防御システム		
8) 再生と修復のしくみ		
9) 生命活動を維持し、感情・欲求をコントロールする脳のつくりと働き		
10) 思考・判断し、創造する脳のつくりと働き		
11) こころと脳のつながり		
12) 人間の行動を引き起こすこころのしくみ		
13) 社会的人間としてのこころのしくみ		
14) 活動に低下・障害が及ぼすところとからだのしくみ		
15) まとめ		
試験) 筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] ・最新 介護福祉士養成講座 第11巻 こころとからだのしくみ 中央法規出版 2019 ・必要に応じて資料を配布する。	【授業内評価】 ・平常点評価 (20%) ・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)	・筆記試験 (60 %) ・レポート (20 %) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献] ぜんぶわかる人体解剖図 (成美堂出版)		
[フィードバックの方法] 筆記試験後正答を掲示します。	[備考] *授業への参加度・発言の積極性を平常点評価とします。	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

220314

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 精神保健	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 吉岡 伸一
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
資格必修		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験 現役の精神科医として精神保健の業務に携わった経験を活かし、精神保健の講義を行う。		
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識という観点や、増大している精神障害、知的障害の分野で必要とされる心理的社会的なケアについての基礎的な知識を養い、介護場面に共通する精神保健の概要を理解し、介護の場面で根拠を説明でき、精神障害のある方を介護する対応や態度を身につけ、実践できる。		主に対応するD P 2
[授業全体の内容の概要] シラバスに従い、教科書、配布資料、DVDなどの視聴覚教材を利用し、授業を行う。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士に必要な精神保健・精神障害のある方への対応を、学んだ知識に基づいて説明でき、現場での対応に活かすことができる。		
[準備学習の内容] 教科書を事前に読み、学習したことを随時提出する。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) 精神保健の基礎 (1) ①精神保健とは②精神保健の歴史：精神保健の歴史を学び、現在の精神保健の概要を理解する：教科書に基づき、資料とあわせて行う		
2) 精神保健の基礎 (2) ①心の働きとその理解②精神障害の原因③ライフイベントと心理検査：心の働きを生物心理社会的に理解し、精神障害の原因を理解し、ライフイベントと心理検査の概要を理解する：教科書と資料をあわせて行う		
3) 精神症状の基礎①精神症状と障害について：精神症状に関する専門用語を理解し、障害と対応できる：教科書と資料をあわせて行う		
4) 精神障害の知識 (1) ①器質性精神障害（認知症その他）②高次脳機能障害③精神作用物質による障害：器質性精神障害、高次脳機能障害などの障害を理解する：教科書と資料を組合せ、DVDなどを活用し行う		
5) 精神障害の知識 (2) ・①統合失調症②気分障害：統合失調症、気分障害を理解する：教科書と資料を組合せ、DVDなどを活用し行う		
6) 精神障害の知識 (3) ①神経症性障害その他②生理的障害③パーソナリティの障害：神経症性障害、生理的障害、パーソナリティの障害を理解する：教科書と資料を組合せ、DVDなどを活用し行う		
7) 精神障害の知識 (4) ①知的障害②心理的発達の障害：知的障害、心理的発達の障害を理解する：教科書と資料を組合せ、DVDなどを活用し行う		
8) 精神障害の知識 (5) 小児期及び青年期の障害②てんかん：小児期及び青年期の障害、てんかんを理解する：教科書と資料を組合せ、DVDなどを活用し行う		
9) 精神障害の治療 (1) ①身体療法（薬物療法その他）：薬物療法のメカニズムをはじめ、身体療法の概要を理解し教科書と資料を組合せ、DVDなどを活用し行う		
10) 精神障害の治療 (2) ①精神療法・心理療法②社会療法（精神科リハビリテーション）：精神療法・心理療法の種類と効果、精神科リハビリテーションなどの社会療法を理解する：教科書と資料を組合せ、DVDなどを活用し行う		
11) 社会と精神保健 (1) ①家庭の精神保健②学校の精神保健：家庭や学校の精神保健を理解する：教科書と資料を組合せ、DVDなどを活用し行う		
12) 社会と精神保健 (2) ①職場の精神保健②病院・施設の精神保健：職場や病院・施設の精神保健を理解する：教科書と資料を組合せて行う		
13) 社会と精神保健 (3) ①災害その他特殊な状況下での精神保健②終末期と看取り：災害や特殊状況下での精神保健、終末期と看取りについて理解する：教科書と資料を組合せて行う		
14) 連携と協同 (1) ①地域精神保健の考え方②地域精神保健活動の変遷：地域精神保健の考え方や活動の変遷について理解する：教科書と資料を組合せて行う		
15) 連携と協同 (2) ①地域精神保健福祉の最近の動向②地域精神保健福祉活動の実際：地域精神保健福祉の動向や活動の実際について理解する：教科書と資料を組合せて行う		
試験) 筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト]新版「精神保健」第3版（医学出版社、2016年）	【授業内評価】	・筆記試験（90%）
[参考文献]授業中に提示資料を配布	・平常点評価（10%）	・レポート（%）
	・到達度の確認（%）	・実技試験（%）
	・実技・作品発表（%）	・面接試験（%）
[フィードバックの方法] 正答を試験期間終了後に開示する。	【備考】事前学習による提出物も評価する	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

220323

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の心理学	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 山本 俊磨
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 学生は、すでに学習した「こころのしくみ」を併用しながら生涯発達の視点で老化を理解し、老化に関する心理学的変化の特徴について基礎的知識を習得するようにします。この学習を通して、学生は学科のD Pを体得し、介護が必要な状態の人々の発達特性に応じた介護ができるように期待されます。		主に対応するD P 2
[授業全体の内容の概要] 授業は目的とねらいに沿ったテキストや教材を中心にすすめます。学生は人間の成長と発達の基礎を理解し、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化、日常生活と適応などについて学習します。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 人間の成長と発達の理解を通して、学生は老年期や高齢者の諸特性を知り、高齢者がどのように生きていくのか、高齢者をどのように支え、どのように支援するのか必要な心理的社会的ケアのあり方を習得します。		
[準備学習の内容] 事前にテキストを読んでおくこと。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) 人間の成長と発達の基礎的理解 人間の成長と発達		
2) 発達の定義 発達段階と発達課題		
3) 老年心理学の基礎 老年心理研究の歴史		
4) 老年心理学の諸理論 満足のいく老い・エイジング・介入理論		
5) 老年期の発達と成熟 老年期の定義 老年期の発達課題		
6) 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 生理的加齢と心理的加齢		
7) 感覚と知覚		
8) 知能・学習・記憶		
9) 問題解決と創造性		
10) 老年期のパーソナリティと適応		
11) 老年期の異常心理 器質的精神障害と機能性精神障害		
12) 認知症 評価 リハビリテーション		
13) 参考：認知症の理解とユマニチュード		
14) 高齢者への対応 施設入所者と在宅高齢者 悩みとカウンセリング		
15) まとめ 全体復習		
試験) 筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 「新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」中央法規	【授業内評価】 ・平常点評価 (20 %)	・筆記試験 (80%) ・レポート (%)
[参考文献] 「老人の心理と援助」井上ほか編 メジカルフレンド社	・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)	・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[フィードバックの方法] 筆記試験後、正答を掲示する。	[備考] 筆記試験・レポートなどの課題による総合評価	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

210321

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 老化と高齢者の健康		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 三浦 信子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 老化に伴う身体的機能、知的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解する。 2. 高齢者に多い症状、疾患の特徴を理解し、その留意点と保健医療職との連携について理解する。					2
[授業全体の内容の概要]					
テキストを中心に老化や疾患の特徴について理解し、生活を支えていく上での生活上の留意点および保健医療機関との連携を考えていく。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. 老化に伴う身体機能、知的機能の変化の特徴と生活への影響について説明できる。 2. 高齢者に多い症状、疾患の特徴と生活の留意点が説明できる。 3. 疾患を持つ高齢者の日常生活を支えるためのチームケアとしての保健医療職との連携のあり方について考えることができる。					
[準備学習の内容]					
前期科目「からだのしくみ」の復習をしておくこと。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 身体的発達と老化現象を理解する					
2) 老化に伴う身体的変化と日常生活への影響・外見上の変化・骨・関節機能の変化と日常生活への影響					
3) 脳・神経系の変化と生活への影響・疾患について					
4) 感覚機能（視覚・聴覚・皮膚）の変化と生活への影響・疾患について					
5) 血液・循環器系の機能の変化と生活への影響・疾患について（1）					
6) 血液・循環器系の機能の変化と生活への影響・疾患について（2）					
7) 呼吸器系の機能の変化と生活への影響・疾患について（1）					
8) 呼吸器系の機能の変化と生活への影響・疾患について（2）					
9) 消化器系の機能の変化と生活への影響・疾患について（1）					
10) 消化器系の機能の変化と生活への影響・疾患について（2）					
11) 腎・泌尿器系、生殖器系機能の変化と日常生活への影響・疾患について					
12) 内分泌・代謝系の機能の変化と生活への影響・疾患について					
13) 免疫系の機能の変化と生活への影響・感染症について					
14) 保健医療職との連携について					
15) まとめ					
試験) 筆記試験			[単位認定の方法及び基準]		【試験】
[使用テキスト]			【授業内評価】		・筆記試験（80%）
最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」中央法規			・平常点評価（10%）		・レポート（%）
[参考文献]			・到達度の確認（10%）		・実技試験（%）
			・実技・作品発表（%）		・面接試験（%）
[フィードバックの方法]			[備考]		
筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。					

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

210320

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 認知症のケアⅡ	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 林原 豊（元 GH 総合施設長）
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験 グループホーム総合施設長としての経験を基に、現場で通用する知識や技術の授業を行う		
[授業の目的・ねらい] 認知症の人を取り巻く現状、症状に関する基礎的な知識を学び、認知症ケアの基本的な技術に関する知識を身に付ける。		主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] テキスト、配布資料、スライドなどを使用しながら授業をおこないます。		
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 認知症の人を取り巻く現状について理解し、概要を説明できる。基礎的な知識を身に付け、症状や影響要因について具体的な例示ができる。		
[準備学習の内容] 所要時間：1時間 「認知症」にまつわる記事（ニュースや新聞、厚生労働省 HP など）を 400 文字以内でレポートにまとめる		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) オリエンテーション 認知症の人の医学的理解と心理的理解の振り返り		
2) 認知症の人の理解と生活の捉え方 パーソナリティの変化 環境への働きかけの変化		
3) 家族の理解・認知症の人との関係理解 最初の困惑 受診の困難さ サービス導入 ストレスの開放と愚痴 家族との関係と理解		
4) 認知症の人のアセスメント 意思権利決定支援と権利擁護 生活の質の保証		
5) 認知症の人のアセスメント Ⅱ 権利擁護とリスクマネジメント		
6) 認知症の人のアセスメント Ⅲ（グループワーク） 認知症の人のケアマネジメントセンター方式の理解		
7) 認知症の人のアセスメント Ⅳ（プレゼンテーション） 認知症の人のケアマネジメントセンター方式の活用（事例）		
8) 認知症の原因疾患別の支援 アルツハイマー型認知症 血管性認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症		
9) 認知症の人を理解したコミュニケーション コミュニケーション手段 コミュニケーション基本姿勢		
10) 毎日がアルツハイマー 関口祐加：監督 株式会社：ジグロ（DVD） （ディスカッション）		
11) 援助者の位置づけと人間関係 位置づけと在り方 認知症の人との関係 家族との関係 他の援助者との関係 地域住民との関係		
12) 人的環境と住居環境を考える 認知症の人の為の住環境		
13) 地域社会環境を考える（フィールドワーク） 地域社会 社会制度 生活文化や伝統		
14) 生活支援の方法を考える（グループワーク） 生活支援の基本的視点 1～14 コマを振り返りながら事例検討		
15) 生活支援の方法を考える（プレゼンテーション） 事例検討 報告		
試験) 筆記試験・レポート	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 認知症介護実践者研修標準テキスト ワールドプランニング社	【授業内評価】 ・平常点評価 (%)	・筆記試験 (50 %)
[参考文献] その人を中心とした認知症ケア パーソン書房	・到達度の確認 (%)	・レポート (50 %)
[フィードバックの方法] 正答と解答のポイントを試験期間終了後に開示する	・実技・作品発表 (%)	・実技試験 (%)
	[備考]	・面接試験 (%)

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

220322

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 障がいの医学的理解	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 瀧本 真奈美
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、障害のある人生活に配慮した介護の視点を習得し実践できる。		主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 障害の医学的側面の基礎知識、生活支援のための注意事項や観察ポイントについて学習する。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ① 障害のある人の生活支援の根拠となる知識を理解し説明できる。 ② 障害のある人の生活支援について、根拠を明らかにしながら考えることができる。		
[準備学習の内容]		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) 障害のある人の心理		
2) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 1. 肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活①		
3) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 2. 肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活②		
4) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 3. 視覚障害、聴覚言語障害のある人の生活		
5) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 4. 重複障害のある人の生活		
6) 内部障害 1. 心臓機能障害		
7) 内部障害 2. 呼吸機能障害		
8) 内部障害 3. 腎臓機能障害 4. 膀胱・直腸機能障害		
9) 内部障害 5. 小腸機能障害 6. ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害		
10) 内部障害 7. 肝臓機能障害 8. 重症心身障害		
11) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 1. 知的障害 2. 精神障害		
12) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 3. 精神障害 4. 高次脳機能障害		
13) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 5. 発達障害		
14) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 6. 難病		
15) まとめ		
試験) 筆記試験	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」（中央法規）	【授業内評価】 ・平常点評価 (20 %)	・筆記試験 (60 %)
[参考文献] ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版） はたらく細胞 1巻～5巻（講談社）	・到達度の確認 (20 %) ・実技・作品発表 (%)	・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

220311

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 国家試験基礎演習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 小田 史	
授業の回数	5 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 介護福祉国家試験合格に向けて、基礎的な知識を身につける。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] ・ 模擬試験の実施 ・ 模擬試験後、学生個々の苦手とする科目を把握し、調べ学習や各科目担当講師による集中講義を実施する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 模擬試験の成績が合格ラインに到達する。					
[準備学習の内容]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 模擬試験①					
2) 模擬試験②					
3) 調べ学習					
4) 集中講義①					
5) 集中講義②					
試験)			[単位認定の方法及び基準]		【試験】
[使用テキスト] 『見て覚える！介護福祉士国試ナビ』中央法規出版			【授業内評価】 ・ 平常点評価 (100%)		・ 筆記試験 (%)
[参考文献]			・ 到達度の確認 (%)		・ レポート (%)
			・ 実技・作品発表 (%)		・ 実技試験 (%)
[フィードバックの方法]			[備考]		

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

--

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 日本の生活文化		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 瀧本 真奈美	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		選択必修			
[授業の目的・ねらい] ・日本の伝統や文化、習慣について理解し伝えることができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ・日本に一年は、独自の風習やしきたり、年中行事、祭りや旬のものがあり、にぎやかである。年間を通じて、日本の暮らしを知り、四季折々の行事を自分でも調べてみる。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ①日本の風習をすることができる。 ②日本の暮らしを紹介できる。					
[準備学習の内容] 授業前に、テキストを良く読んでおくこと。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション 春の暮らし①弥生（発表紹介）					
2) 春の暮らし②卯月（行事・遊び・食事など発表）					
3) 春の暮らし③皀月（行事・しきたり・食事など発表）					
4) 春の暮らしを体験する（発表を参考に実践）					
5) 夏の暮らし①水無月（行事・遊び・食事など発表）					
6) 夏の暮らし②文月（行事・しきたり・食事など発表）					
7) 夏の暮らし③葉月（行事・しきたり・食事など発表）					
8) 夏の暮らしを体験する（発表を参考に実践）					
9) 秋の暮らし①長月（行事・遊び・食事など発表）					
10) 秋の暮らし②神無月（行事・しきたり・食事など発表）					
11) 秋の暮らし③霜月（行事・しきたり・食事など発表）					
12) 秋の暮らしを体験する（発表を参考に実践）					
13) 冬の暮らし①師走（行事・遊び・食事など発表）					
14) 冬の暮らし②師走（行事・しきたり・食事など発表）					
15) 冬の暮らし①師走（行事・しきたり・食事など発表）					
試験）レポート試験		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 「大切にしたい、にっぽんの暮らし」さとうひろみ、サンク チュアリ出版 2014		【授業内評価】 ・平常点評価（ 25% ） ・到達度の確認（ % ） ・実技・作品発表（ 50% ）		・筆記試験（ % ） ・レポート（ 25 % ） ・実技試験（ % ） ・面接試験（ % ）	
[参考文献]		[備考]			
[フィードバックの方法] 試験終了後、解答のポイントを掲示する。		平常点評価：受講態度・発言の積極性			

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

111113

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） 日本国憲法	授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義	授業担当者 永松 正則
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 高齢者、社会的弱者にやさしい社会を作るために、社会の仕組み、とくに基本的人権、法制度を理解し説明できる。		主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 生命身体を守り、個人の自己決定を尊重する福祉の実現のために、憲法が保障する基本的人権と統治機構について学びます。		
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 憲法が保障する基本的人権について、とくに高齢者や障がい者の権利という視点から、また介護福祉士という視点から説明できる。 人権侵害に関する司法的・行政的救済場面において、論理的に自分の考えを展開することができる。		
[準備学習の内容] さまざまな裁判例を新聞などのメディアで積極的に触れてください。各回で紹介する最高裁判所の判例を読んで授業に臨んでください。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1) 憲法総論 憲法の学習を始める上で必要となる近代憲法史、憲法の基本原理である「立憲主義」、「国民主権」、「平和主義」、「基本的人権の尊重」などを概観し、授業の射程を明らかにします。 2) 基本的人権総論 個々の人権規定に共通する以下のテーマについて解説します。（1）人権享有主体、（2）人権の分類 3) 幸福追求権 「新しい人権」の源となっている幸福追求権について解説します。 4) 法の下での平等 何が憲法が要求する「平等」なのか。尊属殺重罰規定、女性の再婚禁止期間規定、夫婦別姓制度など具体的な裁判例を通じて明らかにしていきます。 5) 自由権 思想良心の自由、信教の自由、職業選択の自由などの自由権について解説します。 6) 表現の自由 自由権の中でもとりわけ重要な表現の自由について解説します。 7) 生存権 何が「健康で文化的な最低限度の生活」なのか、朝日訴訟などの裁判を通じて明らかにします。また生存権を具体化している諸法律について紹介します。 8) 社会権 教育を受ける権利、労働基本権などの社会権について解説します。 9) 受益権（国務請求権）、参政権 第3回から第8回まで扱わなかった人権について、最高裁判所の違憲判決を通じて解説します。 10) 基本的人権のまとめ 第9回までの内容をまとめ、人権の限界について考えます。 11) 立法と国会 国会の仕組みと憲法の定める「最高機関」、「唯一の立法機関」の意味について明らかにします 12) 行政と内閣 議院内閣制と大統領制の違い、内閣の組織・権限、内閣総理大臣の権限などについて解説します。 13) 司法と裁判所 日本の裁判制度と司法権の独立について解説します。 14) 違憲審査制 最高裁判所の違憲判決を通じて、日本の違憲審査制の特徴について解説します。 15) 到達度の確認		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 授業で扱う裁判例がコンパクトに解説されている野中・江橋『憲法判例集（第11版）』（有斐閣新書・2016）を指定します。 ※ 授業は担当者が用意する資料にそって行います。	【授業内評価】 ・平常点評価 () (%) ・到達度の確認 (100) (%) ・実技・作品発表 () (%)	・筆記試験 () (%) ・レポート () (%) ・実技試験 () (%) ・面接試験 () (%)
[参考文献] 定評のある教科書として多くの大学で指定されている芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店・2015）があります。		
[フィードバックの方法] 全授業終了後、正答を開示します。	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

介護福祉学科（安来キャンパスコース）

授業のタイトル（科目名） キャリアアップ教育Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 石丸 直樹	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		選択			
[授業の目的・ねらい] 自分らしく生きることや社会で働く意味について考え、自己理解を通じたキャリアデザインを作成するための基本を身につけることができる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 内的キャリアの理解には、自己理解を深める必要がある。そこで、自己理解を深めるための個人ワーク及びグループワークを中心に行う。ワークシートへの記入を行い、グループで共有する。 <u>*なお履修に関しては、第4セメスターでキャリアアップ教育Ⅳを引き続き履修することが望ましい。</u>					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・自分を見つめ、自分のキャリアを考えることができる。 ・内的キャリアについて理解することができる。 ・働くとは何かについて理解することができる。 ・ライフロールの作成を通じて自分のこれまでの役割、これからの役割について主体的に考えることができる。					
[準備学習の内容]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション キャリア教育とは？ 今、気になっていることは？					
2) ジョハリの窓 自己開示とフィードバック					
3) 自己理解と自分らしさ わたしは誰？					
4) 内的キャリア やる気のもとは何？					
5) 出会い・その偶然をどう手に入れる？ ジョン・D・クルンボルツの理論（ハップンスタンス・ラーニング・セオリー）					
6) 人生線分析 ライフラインチャートから自分を知る					
7) Job と Work / 仕事人生と全人生 Job と Work の違いは？					
8) 人生は多重役割～ライフロール～ ドナルド・E・スーパの理論（ライフ・キャリア・レインボーから将来の役割を考える）					
試験) なし。		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 『改訂版 自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック』（日本能率協会マネジメントセンター）		【授業内評価】 ・平常点評価 (100%) ・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)		・筆記試験 (%) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)	
[参考文献] 『未来を拓く キャリア・デザイン講座』（中央経済社） 『大学1年からのキャリアデザイン実践』（八千代出版）					
[フィードバックの方法] 提出された課題について授業内で解説し、フィードバックを行う。		[備考] 評価について：学習の様子（50%）、ワークシート等の提出と記述内容（50%） <u>なお履修に関しては、第4セメスターでキャリアアップ教育Ⅳを引き続き履修することが望ましい。</u>			

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

522510